

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年10月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0895100048		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	花水木岩瀬館	ユニット名	大空
所在地	〒309-1211 茨城県桜川市岩瀬229-1		
自己評価作成日	平成22年3月31日	評価結果 市町村受理日	平成22年9月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年5月28日	評価確定日	平成22年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自立支援に向けて、きめの細かいサービスや 外に出る機会を多くするようこころ掛けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は利用者の個性を尊重し、その人らしい生活リズムで日常生活ができるよう、一人ひとりに合わせた支援を心がけている。 利用者が事業所を我が家と思えるよう、アットホームな雰囲気の中で生活を職員と共に楽しんでもらえるように支援している。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊かさ・自立・生きがいという理念が社会福祉法人木犀会として掲げていますが、花水木岩瀬館として、自立支援を目指し 地域とふれあい笑顔で共に支えあいながらアットホームな生活を共に楽しむ。と掲げ、共有している。	法人の理念をもとに全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するとともに、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや消防団等に寄付、子供100当番に登録、地域の方々がボランティアに来てくださいます。婦人部 幼稚園児など 避難訓練の際 御近所の方が協力してくれる。	自治会には加入していないが、地域の祭りに参加したり、子ども110番に登録して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会や介護相談など開催しています。見学に来られたかたの 相談等も聞くよう対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の利用状況報告や活動報告を行い 参考意見を頂き サービスに活かしている。	運営推進会議では利用状況や活動報告のほか、委員から意見等を聴取して運営の参考にしているが、2ヶ月に1回の開催や、議事録を整備するまでには至っていない。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所からの報告のほか、委員の意見等を積極的に聴取して運営に反映するとともに、議事録の整備を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会開催や市役所へ足を運ぶようにしている。保健士に話を聞いたりもしている。	運営推進会議に市担当者が出席しているほか、介護保険制度関連法令等の不明点を相談したり、市の保健師とは感染症対策について相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯等 一人に対応しなくてはならない以外は 施錠しないよう心がけている。	身体拘束をしないケアを全職員で共有し実践している。 2階のユニットは危険防止のため、家族等の承諾を得て出入り口を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については 一人一人理解していましたが、虐待防止について学ぶ機会が少ない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設としては 権利擁護について勉強はしていないが、ご家族様に必要と思われることは相談になる等支援している。今後は 施設内で勉強会に取り入れていきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書 重要事項説明書など、解りやすく説明を行い 納得して頂いてから、契約を行なっています。また事前に契約書等を読んで頂くなどもしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の声 家族の意見に注意深く耳を傾け 話しやすい雰囲気を作り 意見を言いやすいようにしている。また 投書箱を設けている。意見が有った時は 職員で話し合い検討して対応している。	面会時や家族会開催時に利用者や家族等と話し合ったり意見箱や意見ノートを設置しているが、意見や要望を十分に汲みあげるまでには至っていない。	利用者や家族等の意見や要望に注意深く耳を傾け、常に話し易い雰囲気づくりを心がけることを期待する。 意見等を出し難い利用者や家族等に配慮し、無記名のアンケートを実施するなど、意見や要望が汲みあげられるよう取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で、定期的に職員会議を開催して、意見交換している。	月1回職員会議を開催し意見交換をしている。 管理者は職員の相談を受けているが、職員の意見等を十分に汲みあげるまでには至っていない。	代表者は職員意見の反映を管理者のみに任せず、現場の状況を把握して、要望があった研修計画の作成や実施などに取り組むことを期待する。 代表者は不満や苦情を出し難い職員にも、積極的に意見や要望を聞くように心がけ、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり それに基づいて就業しているが、やりがいや 向上心を持って働けるよう職場環境を整えていきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は設けられていない。人員に余裕がなく、研修会の参加は少なくなっている。今後は定期的に研修の参加を取り入れていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者との交流をかねて施設の便りを配布したり、救命講習の参加を募ったりしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に不安や悩みを傾聴できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やケアマネ 担当職員がインテークからアセスメントについて、本人や家族から話を聞く時間を作り共感する事から始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話の主旨を理解し 必要としている支援に繋がるよ助言や提供をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共同生活をしながら過ごすという前提の上、食事を一緒に摂ったり、出来るところは本人の意向に添って対応し 利用者様に教えて頂いたりしながら一緒に生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加など参加しやすいよう心掛けている。毎月担当職員から近況報告の手紙を送付して、利用者様の様子を伝えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用差者さまの友達や近所の方がいつでも面会に来ていただけるよう支援している。ドライブや散歩など馴染みの場所へ出かけるようにしている。	利用者の友人や近所の知人がいつでも面会に来てもらえるよう、気軽に来訪し易い雰囲気づくりに努めている。 散歩や買い物など馴染みの場所へ出かけられるよう、職員は付き添い支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌やリハビリ体操など利用者様共通の時間を提供している。利用様同士の談話の空間、時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族に会った時は話をしたりしますが、改めて行なっているわけではない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	様子観察しながら本人の意向や訴えを汲みとり、担当者会議などで、職員が思いを考えるようにしている。検討している。	利用者や家族等の思いや意見を聴き、意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、行動や言葉、表情などから意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中から生活歴や職歴、考え方など把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックなど体調に配慮し、レクリエーションや外出など工夫している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回 ケアカンファレンスを開催 スタッフ間で話し合い 介護計画に反映している。	毎月1回カンファレンスを開催し職員で話し合い介護計画を作成しているが、見直しまでの設定期間が長い。	介護計画はアセスメントやモニタリング、カンファレンスを行い全職員で意見交換をして6ヶ月に1回程度見直すとともに、心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直すことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録には、体調の変化 通院 ケアの実践 日常の様子など 訴え 問題行動など記録している。連絡ノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中にも 個々の要望に応えられるサービスや支援が出来るよう努めている。自宅へ行って見たい墓参りに行きたいなどの訴えに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供100当番の家として、登録している。 地域の方々のボランティア等による訪問を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族が希望する病院に受診している。掛かりつけ医と関係を断ち切らないように対応している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診や、協力医療機関の受診を支援するとともに、緊急時にも適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師はいないが、各病院の看護師と連携をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院スタッフ、家族と連携をとっている。入院の際は定期的に面会に行くなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての方針はまだない。今後は家族と話し合いをして行きたい。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針やマニュアルを作成するまでには至っていない。 利用者が重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から利用者や家族等、主治医などで話し合い、方針を共有するまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針や家族等の意思確認書、マニュアルを作成するとともに、利用者が重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等、関係者で話し合い共有を図るなど、体制を整えることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の開催している。今後も継続していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練実施している。避難訓練の際 御近所の方の参加があり、見守りの協力を得る事ができました。	年3回避難訓練を実施しマニュアルを作成しているが、夜間想定や近隣住民の参加を得た避難訓練を実施するまでは至っていない。	夜間の避難がスムーズにできるよう、特に2階ユニットは非常口や階段を使った避難訓練の実施を期待する。 避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、自治会代表者を通して協力を要請することが望まれる。 避難に時間がかかるなど、訓練で明らかになった課題が改善できるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に合った対応をしている。言葉かけにも配慮している。	利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけるとともに、自己決定できるような支援に努めている。 事業所だよりなどへの写真の掲載は、最近入居した利用者からは文書で同意を得ているが、以前からの利用者は口頭で承諾を受けている。	写真の掲載は、全利用者から文書で同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族の意向も踏まえ 出来るだけ利用者様の気持ちを大切にして支援を目指している。意思表示の困難な利用者様には、その人の気持ちを大切に考え 支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースや体調にあわせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自分で選んで頂いたり 身だしなみの支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が入り一緒に食事をとっている。出来る方には、盛り付けや食後の片付け、食器拭きなどしていただいている。	食材及びカロリー計算、献立は専門業者に一任しているが、朝食と月1回の食事は事業所で作成している。 各テーブル毎に職員が利用者と一緒に食事をするとともに、利用者は配膳や下膳などを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月 体重測定を行い その方にあった食事量を提供し、水分摂取も記録し、一人ひとりにあった支援を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。出来るところまで本人が、出来ないところや磨き残しは 介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、見守りしています。オムツからリハビリパンツへまた個々の排泄パターンを把握してパットの枚数を減らすよう支援している。	排泄記録表をもとに時間を見計らって声をかけ、トイレで排泄ができるよう支援している。 おむつからリハビリパンツへ改善したり、パットの使用を減らすよう取り組むなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動に心がけています。お茶に限らず好きな飲み物などで、補給して頂いている。朝 薄めのセンナ茶を飲んでいきます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様に合わせて 入浴の声かけをしています。拒否される利用者様にたいして、職員間で工夫して対応し、できた様子など共有して、チャレンジしている。強要はしないようにしている。	入浴は原則として毎日実施している。 入浴を拒否する利用者には声かけや誘導に工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットの向きや 部屋の場所など配慮している。夜間良眠出来るよう日中を活動的に過ごして頂く様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前 時間帯（朝 昼 夕）、服薬後の確認 症状に変化が出た時など敏速に対応して 状態を主治医に報告 相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人にあった役割を担って頂いている。ドライブなど好きな方には、買い物など職員と一緒に出かけしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の意向に添った外出や季節感を味わえる外出先を考えて外出しています。また ドライブなど出かけています。	職員は利用者一人ひとりの希望に応じて近所の散歩や地域の行事、買い物に出かけたり、知人や友人を訪問できるよう支援している。 家族等の協力を得て花見や公園散策、外食などを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方は、自分で管理し、好きな物を買ってきています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話できる方は、自分で、出来ない方は職員が通知して、いつでも好きな時に電話が掛けられるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの配置と座席を工夫しながら、余裕の感じられる空間を確保している。壁に季節にあって掲示物を利用者様と一緒に作り掲示しています。	フロアの飾り付けやテーブルの配置、座席の位置などを工夫し、ゆとりある空間を作り出している。 行事の写真やレクリエーションで作成した作品を飾り季節感を取り入れたり、家庭的な雰囲気となるよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやラックを配置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら 使い慣れた物やタンスなど用意して頂いて、居心地良く暮らせるよう工夫しています。	居室に自宅で使っていた馴染みの家具を自由に持ち込み、居心地良く暮らせるよう工夫している。 ベッドや布団は利用者の好みに合わせ配置し、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所 お風呂など表示してあり、出来るところ、わかるところは自立して生活が遅れるよう支援しています。シルバーカーを利用して自立歩行している方が、安全に歩行できるよう環境を整えています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐ 1, ほぼ全ての利用者の ☐ 2, 利用者の2/3くらいの ☐ 3, 利用者の1/3くらいの ☐ 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐ 1, 毎日ある ☐ 2, 数日に1回程度ある ☐ 3, たまにある ☐ 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐ 1, ほぼ全ての家族と ☐ 2, 家族の2/3くらいと ☐ 3, 家族の1/3くらいと ☐ 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 花水木岩瀬館

作成日 平成22年9月25日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	重度化や終末期向けの 取り組み	重度化に向けての取組	重度化した場合の対応を 施設側で話し合いマニアル 作成(職員 管理者 本 部役員等) その後 家族 と話し合う。	6ヶ月～1年
2	4	運営推進会議を活かした 取り組み	今年度は、2ヶ月に1 回のペースで開催す る。	今年度 年6回開催す る。議事録については、 他施設等を参考にして、 整備していく。	現在は 年 6回のペー スで取り組 んでいる。 議事録は、 今年度中に 達成する。
3	10	運営に関する利用者、家 族等の意見の反映	年2回の家族会開催・ 無記名アンケート実施	9月 3月の家族会の際 無記名のアンケート配布	9月の家族 会に実施 今回は、3 月に行な う。
4	11	運営に関する職員意見の 反映	フロアーに出て、職員 とコミュニケーションを とる。	管理者は 職員と話す時 間を作り 運営者に状況 報告をしていく。	6ヶ月～1年
5	26	チームで作る介護計画と モニタリング	モニタリングは、利用 者様担当職員、ケアマ ネが見直しをする。	現在は 期間が来る前に 担当職員に見直しをして もらっている。計画作成 担当者が増えたので、計 画的に行なえる。	現在 進行 中である。
1	35	災害対策	非常階段を使った避難 訓練実施する。運営推 進会議の際 自治会地 区代表に相談してい く。	非常階段を職員が使用し て、利用者様にとってど のように対応して行くか 考えてから、実施する。 区長に相談して協力を得 られるよう努める。	6ヶ月
2	36	一人一人の人格の尊重と プライバシーの確保	写真の掲載を文書にて 同意をえる。	口頭で承諾を受けた肩に 早急に 文書にて同意を えていく。	1ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。